

(お知らせ)

「生物多様性 日本アワード」受賞者の決定について

<東京商工会議所同時発表>

平成21年9月10日(木)
環境省自然環境局自然環境計画課
生物多様性地球戦略企画室
直 通：03-5521-8150
代 表：03-3581-3351
室 長：鳥居 敏男(内線 6480)
室長補佐：鈴木 渉 (内線 6838)
担 当：吉原 純一(内線 6825)

(財)イオン環境財団と環境省は、「第1回 生物多様性 日本アワード」の優秀賞8件を決定しましたのでお知らせいたします。

なお、グランプリにつきましては、上記8件の中から選定され、本年10月9日(金)に愛知県名古屋市で開催予定の「生物多様性 日本アワード 第1回授賞式」において発表の予定です。

平成21年6月、(財)イオン環境財団と環境省は、2010年に愛知県名古屋市で開催される生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に向けて、「生物多様性の保全」及び「生物多様性の持続可能な利用」を推進するため、「生物多様性 日本アワード」を創設いたしました。

この度、第1回目となる「生物多様性 日本アワード」の優秀賞8件を決定しましたのでお知らせいたします。受賞者につきましては、別添資料1「第1回 生物多様性 日本アワード 優秀賞受賞者一覧」を御参照ください。

これらの優秀賞については、以下により厳正な審査を行った上で決定いたしました。

(1) 「生物多様性 日本アワード 実行委員会」の設立

主催者である(財)イオン環境財団と環境省は、中立的な実施主体として「生物多様性 日本アワード 実行委員会(以下「実行委員会」という。)」を設立し、涌井史郎 桐蔭横浜大学特任教授をアドバイザーに迎え、顕彰制度の検討と運用を行いました。

実行委員会は、有識者等11名により構成される「生物多様性 日本アワード 審査委員会(以下「審査委員会」(別添資料2)という。)」を設置し、受賞候補事例の審査を実施しました。

(2) 受賞候補事例の推薦

候補事例は、審査委員等からの推薦により選定いたしました。

地球のいのち、つないでいこう



生物多様性 日本アワード

(3) 受賞候補事例の審査

各受賞候補事例については、公開情報等に基づく予備審査及び書面審査、事務局による追加調査等を実施した上で、審査委員会にて、審査を実施しました。

なお、グランプリにつきましては、優秀賞8件の中から選定され、本年10月9日（金）に愛知県名古屋市で開催予定の「生物多様性 日本アワード 第1回授賞式」において発表する予定です。

【参考】

1. 生物多様性 日本アワードの概要

(1) 目的

2010年に愛知県名古屋市で開催される生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に向けた「生物多様性の保全」及び「生物多様性の持続可能な利用」の推進

(2) 名称

「生物多様性 日本アワード」（英語名：Japan Awards for Biodiversity）

(3) 主催者

財団法人イオン環境財団、環境省（生物多様性 日本アワード 実行委員会）

(4) 顕彰の要件

国内における個人・団体による取組、もしくは国内に本拠地を置く個人・団体による海外における取組であって、「生物多様性の保全」又は「生物多様性の持続可能な利用」に顕著な貢献が認められること。

2. 部門

部門は、2つの領域（A「生物多様性の保全」、B「生物多様性の持続可能な利用」）と4つの分野（1「フィールド」、2「リサーチ」、3「プロダクト」、4「コミュニケーション」）から構成されます（別添資料3）。

それぞれの部門で最も優れた取組を、優秀賞として選出し、さらに8部門の優秀賞受賞者のうち、特に傑出した取組を、「生物多様性 日本アワード グランプリ」として選出します。

- 〔部門〕 1 A 「保全フィールド」
1 B 「利用フィールド」
2 A 「保全リサーチ」
2 B 「利用リサーチ」
3 A 「保全プロダクト」
3 B 「利用プロダクト」
4 A 「保全コミュニケーション」
4 B 「利用コミュニケーション」

地球のいのち、つないでいこう



生物多様性 日本アワード

添付資料

別添資料1：第1回 生物多様性 日本アワード 優秀賞受賞者一覧

別添資料2：生物多様性 日本アワード 審査委員会 委員名簿

別添資料3：生物多様性 日本アワードの授賞部門について

地球のいのち、つないでいこう



生物多様性 日本アワード